

「わたしの愛する子」

2019年07月04日

ペトロの手紙 二 1章16節～21節 わたしたちの主イエス・キリストの力に満ちた来臨を知らせるのに、わたしたちは巧みな作り話を用いたわけではありません。わたしたちは、キリストの威光を目撃したのです。荘厳な栄光の中から、「これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者」というような声があって、主イエスは父である神から誉れと栄光をお受けになりました。わたしたちは、聖なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。こうして、わたしたちには、預言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意しててください。何よりもまず心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです。なぜなら、預言は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです。

「著者」は、「わたしたちの主イエス・キリストの力に満ちた来臨を知らせるのに、わたしたちは巧みな作り話を用いたわけではありません」と、異なる教えが流布していることを窺わせ、「主イエス・キリストの力に満ちた来臨」に関する宣教をした時、「著者」たちが巧みな作り話をしたのではないと書いている。「著者」は、終末時の来臨の確かさを、地上の主イエスが示した威光によって根拠づけようとしている。「わたしたちは、キリストの威光を目撃したのです。」ペトロは主イエスの威光を直に目撃した。「荘厳な栄光の中から、『これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者』というような声があって、主イエスは父である神から誉れと栄光をお受けになりました。わたしたちは、聖なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。」マタイ、マルコ、ルカの共観福音書は、主イエスは山上で、ペトロ、ヤコブ、ヨハネの目の前で変貌し、衣は純白に輝き、モーセとエリヤが共に現われ、雲の中から「これはわたしの愛する子。これに聞け」という声が聞こえたと伝えている。主イエスは、神の子としての誉れと栄光を受けられた。この主イエスの威光によって、聖書の預言、即ち、終末時の来臨の預言は一層確かなものとなった。ここで言われている聖書は「旧約聖書」である。「夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意しててください。」ユダヤ教において「明けの明星」はメシアと結びつけられている。民数記24章17節bに「ひとつの星がヤコブから進み出る。ひとつの笏がイスラエルから立ち上がり／モアブのこめかみを打ち砕き／シエトのすべての子らの頭の頂を砕く」と書かれている。「ひとつの星」が「明けの明星」で、メシアであると解釈された。今は暗闇であるが、昇って来る夜明けの明星を待つ。即ち、メシアの来臨を待つ。旧約聖書の言葉は、暗闇を進むための灯火で、必ず、キリストは来臨されるという預言に留意してほしい。当時の人々は、旧約聖書をそのように解釈したのである。天地を創造した神が、その結末をつける日が来るという終末信仰の論理的結論には確固とした正当性がある。「著者」は、「何よりもまず心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです。なぜなら、預言は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです」と、自分の論述は聖霊に導かれ、神の言葉を語ったものであるから確かであると力説している。